

搾乳ユニット自動搬送装置

■ 概要

つなぎ飼いの牛舎内で、牛乳処理室から牛がいる所までを結ぶレールを走行し、自動離脱装置付きの搾乳ユニットをミルクタップまで自動搬送して接続し、8頭同時に搾乳ができる。異常があるとランプが点滅する。ユニット離脱を検知すると次の場所に自動的に移動し、全ての搾乳が終わると自動的に元の場所に戻る。



■ 期待できる効果

- ・ 既存のつなぎ飼いの牛舎をそのまま活用できる。
- ・ 搾乳機の自動離脱機能により搾乳時間や作業量を軽減できる。
- ・ パソコンに繋がっているため乳量や給餌量などのデータをすぐに確認できる。

使用者の声

那須烏山市

興野 一美さん、礼子さん、陽洋さん

酪農・乳牛約 120 頭（母牛、子牛、預託牛）

〔導入機器〕 キャリロボ®（オリオン機械株式会社）

2011年に陽洋さんが就農。将来1人で管理できる牛舎を作りたいと一昨年5月に牛舎を新築し、搾乳ユニット自動搬送装置や自動給餌器、哺乳ロボットなど自動化を進めた。

自動化を進めたことで、搾乳量や給餌量等のデータが一目で分かり、また、機械が稼働している時間に他の作業ができるようになった。



（写真左は自動給餌機、右は自動搾乳機に繋がっているミルカー。）

最近では、哺乳ロボットとタブレット（スマートフォン）を連動させた。「Calf App」というアプリを使い、哺乳状況やエラー発生状況などが簡単に確認できるほか、子牛ごとのページからは哺乳量や哺乳場への訪問履歴も確認できる。いつでもどこでも子牛の状態が分かるので外出していても安心だという。